

全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月19日に実施した全国学力・学習状況調査の結果は以下の通りです。この結果を踏まえ分析・考察した本校の課題を全職員で共有し、引き続き、授業の工夫・改善に努めて参ります。

1 国語

(1) 全体の結果

全国および全道の平均正答率を下回りました。

(2) 学習指導要領の内容からみた結果

①知識及び技能

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国および全道の平均正答率を上回りました。
- ・情報の扱い方に関する事項は、全国および全道の平均正答率を大きく上回りました。
- ・我が国の言語文化に関する事項は、全国および全道の平均正答率を大きく下回りました。

②思考力、判断力、表現力等

- ・「話すこと・書くこと」は、全国および全道の平均正答率を上回りました。
- ・「書くこと」は、全国および全道の平均正答率を大きく上回りました。
- ・「読むこと」は、全国平均正答率を大きく下回りました。また、全道の平均正答率を下回りました。

(3) 結果から見た本校の課題

- ・「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」力を高めること。
- ・「行書の特徴を理解する」力を高めること。
- ・「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」力を高めること。
- ・「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」力を高めること。
- ・「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」力を高めること。

2 数学

(1) 全体の結果

全国の平均正答率を下回りましたが、全道の平均正答率上回りました。

(2) 学習指導要領の内容からみた結果

- ・「数と式」では、全国の平均正答率を大きく下回りました。また、全道の平均正答率を下回りました。
- ・「図形」では、全国および全道の平均正答率を下回りました。
- ・「関数」では、全国および全道の平均正答率を上回りました。
- ・「データの活用」では、全国および全道の平均正答率を上回りました。

(3) 結果から見た本校の課題

- ・「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を証明することができる」力を高めること。
- ・「一次関数の変化の割合の意味を理解している」力を高めること。
- ・「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明をすることができる」力を高めること。
- ・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」力を高めること。
- ・「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」力を高めること。

3 理科

(1) 全体の結果

全国および全道の平均正答率を上回りました。

(2) 学習指導要領の内容からみた結果

- ・「エネルギー」を柱とする領域では、全国および全道の平均正答率を下回りました。
- ・「粒子」を柱とする領域では、全国および全道の平均正答率を上回りました。
- ・「生命」を柱とする領域では、全国および全道の平均正答率を上回りました。
- ・「地球」を柱とする領域では、全国および全道の平均正答率を上回りました。

(3) 結果から見た本校の課題

- ・「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する」力を高めること。
- ・「化学変化に関する知識及び技能」と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連づけ、水素を燃料として使う仕組みの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できる」力を高めること。

4 本校の取組

今回の結果ならびに、本校の課題をもとに、授業の工夫及び改善に取り組んでいます。

(1) 表現活動・表現方法の工夫

表現に関わる内容が指摘されていることを踏まえ、各教科で「表現活動」を多く設定することが大切であると考え、教科の特性を生かしながら、生徒が自分の意見や思考したことを表現できる場を多く設定します。

(2) 知識・技能の活用

授業で学習した内容が、日常生活や社会と深くかかわりをもっていることを認識するためにも、知識や技能を有効に活用する場面を設定します。はじめに個人で知識・技能を活用して考え、次にグループで互いの考えを共有するといった話し合い活動や討議の場面を設定します。

(3) 基礎・基本の定着

本校生徒の「知識・技能」は教科によっては概ね身につけていると考えられます。これを踏まえて、上記2つのポイントを押さえるためにも、基礎・基本の内容をさらに定着させていくことが大切です。繰り返し学習を基本としながら、「体験的に学び」「個に応じた支援・指導」を行います。また、スタディサプリの有効活用を図り、家庭での学びを支援します。